

帝塚山派文学学会 会報 第24号

発行日：2025年4月10日

事務局：〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山学中3-10-51 帝塚山学院内

実務事務局：電話 080-1460-6616 / Mail: telite2016@maia.eonet.ne.jp

第26回研究会報告

2025年3月2日（日）午後1時30分より4時まで帝塚山学院本部棟同窓会ホールにおいて第26回研究会が会員20名の参加のもとに開催されました。

第一の発表は、本学会副代表の高橋俊郎さんによる「藤澤桓夫の第二の転機―「日記」から探る当時の心境―」でした。横光利一や川端康成に認められて、彼らと同じ「新感覚派」の作家としてスタートした藤澤は、やがてプロレタリア文学に傾倒しますが、その後に小説『街の灯』を書いたことが最初の転機となりました。それからは、若者のほがらかな生き方を描き出すという作風で書き続けられます。その藤澤に再び転機をもたらしたのが、慕っていた叔母石濱恭子の死でした。それが彼にいかに大きな衝撃を与えたかは、発見された彼の日記の中に見ることができます。その後彼は矢谷典子と結婚し、新しい人生に踏み出しますが、それでもなお、その作風が大きく変更されることはなく、大阪、阪神間を舞台とし、若者の恋愛を現在の起こっていることとして描く、「現在進行形」の小説、それが藤澤のスタイルであると高橋さんは定義されました。発表では、興味深い写真も紹介され、叔母恭子と妻典子の二人がいかに藤澤の人生を彩ったかを知ることができました。また、最後に全作品の初版本の写真にそって各作品の紹介がなされ、美しい装丁を楽しみながら、藤澤がその文学で守ろうとしたことは何だったのかを考えさせられる、非常に示唆に富む発表でした。

第二の発表は本学会運営委員増田周子さんによる「雑誌『苜蓿』覚書―庄野英二・足立巻一・大谷晃一・杉山平一の交流―」でした。同人誌『苜蓿(もくしゅく)』は1983年1月に庄野、足立、大谷の3人によって創刊されました。3人とも日本エッセイストクラブ賞を受賞した著名な作家であり、雑誌や新聞に原稿を書いて稿料の取れる作家でした。しかし彼らは書きたいことを思うままに書いて発表するという趣旨のもと、いわば創作の原点に戻り、自費負担で『苜蓿』を創刊しました。庄野は少年向け小説や「ジャワの佐藤春夫」などのエッセイや回想記を、大谷は織田作之助や上田秋成などの評論を、足立は詩人竹中郁の『評伝 覚書』を連載しました。『苜蓿』はマスコミでも注目されました。年2回の刊行で1994年1月の第22号まで続きましたが、1985年8月に足立が死去したため、代わって杉山が加わっています。足立と杉山は旧知の間柄で、1983年に『竹中郁全詩集』を編集しています。杉山が加わったことに刺激されて庄野は詩を掲載するようになりました。庄野、大谷、杉山はいずれも帝塚山学院大学の教授でした。今回の発表は『苜蓿』に掲載された4人の交友や文学に関わる「雑記」の紹介が主でしたが、帝塚山派作家に共通の自由な精神と、帝塚山派文学の広がりを知ることができる興味深い発表でした。

2024年度公開講座

2025年3月28日（土）午後1時よりあべのボランティア活動センターにおいて本学会副代表 高橋俊郎さんによる公開講座「川端康成「住吉三部作」の周辺」が会員10名の参加のもとに開催され、講演の後、帝塚山から住吉大社周辺のまち歩きを行いました。

第 11 回総会開催予定

日時：2025 年 6 月 29 日(日)13:00～15:00 場所：帝塚山学院本部棟同窓会ホール

総会特別講演 「阪田寛夫関係」

講師：内藤啓子氏（阪田寛夫長女、『枕詞はサっちゃん』で日本エッセイストクラブ賞受賞）

特別講演終了後、学会創立 10 周年記念イベントとして阪堺電車の貸切（帝塚山 4 丁目から乗車、浜寺で折り返し、天王寺駅前終着。15:00～17:00）を行なう予定です。

2025 年度 研究会開催予定

第 27 回研究会 2025 年 9 月 21 日(日) 13:30～16:00 発表予定者（敬称略）中尾務・下定雅弘

第 28 回研究会 2025 年 12 月 14 日（日）13:30～16:00 山口志郎・河崎良二

第 29 回研究会 2026 年 3 月 1 日（日）13:30～16:30 米田華慧・倉橋みどり・高橋俊郎

『紀要第九号』刊行

2025 年 3 月 31 日に刊行し、会員各位のご自宅へお送りしました。

『10 周年記念論集（論文編・講演編）』刊行

帝塚山派文学学会は、昭和 20 年代以降に帝塚山界限に居住した作家および帝塚山学院で教鞭を取った作家たち（藤澤恒夫、長沖一、小野十三郎、伊東静雄、石濱恒夫、庄野英二、庄野潤三、阪田寛夫、杉山平一、橋本多佳子等）が生み出した知的で清新な文学の研究を通して、大阪、ひいては日本の文化の向上に資することを目的に 2015 年に設立されました。本年、創立 10 周年を迎えるに当たり、これまでの研究成果を結集した記念論集を 4 月末に刊行いたします。未開拓な分野に挑んだ意欲的な論文編、四人の作家の長女による講演を収録した講演編を是非ご購入ください。頒価は 1 冊 1,980 円(税込)で、Amazon でも取り扱ってもらう予定です。会員の方で 2 冊ご購入の場合は 3,000 円にてお渡しできますので、事務局までお申し込み下さい。

なお記念論集出版に際して執筆者・講演者の皆様に出版協力金をお願いし、快く引き受けていただきました。記して感謝の意を表します。

2025 年度 個人会員会費納入のお願い

本年度会費未納の方は 2025 年 5 月中に会費を納入していただきますようお願いいたします。既に本年度会費を振り込まれた方には本欄を借りて御礼申し上げます。

○個人会員会費は年額 3,000 円です。振込先口座は以下の通りです。

振込手数料は、会員各位のご負担にてお願いいたします。

1. 「ゆうちょ銀行」に口座をお持ちの方は、以下の口座へ。

記号：1 4 0 9 0 番号：4 4 6 6 3 3 0 1 名称：帝塚山派文学学会

2. 他の金融機関から当学会の「ゆうちょ銀行」口座に振り込む場合は以下の口座へ。

店名：四〇八（ヨンゼロハチ）店番：4 0 8

預金種目：普通預金 口座番号：4 4 6 6 3 3 名称：帝塚山派文学学会

○ 問合せ先：080-1460-6616（事務局担当：梶野隆平）